

国土交通省九州地方整備局長吉崎収様

2012年9月20日

白川の改修および立野ダムについて

1、白川改修について

甚大な被害をもたらした「7・12熊本広域大水害」は、「過去に経験したことのないような大雨」(気象庁)、「1000年に一度の豪雨」(山口大学の山本晴彦教授)と指摘されるように、未曾有とも言えるような大雨によるものでした。

7月12日未明から朝にかけて阿蘇地方(一の宮)の降雨量は、7時間に452mmを記録(1953年6月26日、24時間で432mm、1990年7月2日24時間で376mm～熊本県議会災害対策協議会・震災および防災特別委員会合同現地調査資料)しています。

同時に、被害現場を具体的にみると、地元紙(「熊日」)が「氾濫、堤防ない区間から」と報じているように、堤防がないところからの氾濫が主であり、白川改修の遅れが原因であることが明らかです。

国土交通省が責任を持って、直ちにやるべきことは、遅れている白川の改修です。

日本共産党熊本県委員会・同熊本地区委員会・同北部地区委員会として、白川の氾濫被害地域の現地調査(4回、うち2回は赤嶺政賢衆議院議員同行)にもとづいて、「白川の治水対策」についての以下のとおり要請します。

①来年雨期までに

来年雨期に、「2012年7月12日」規模の大雨が降っても、洪水被害を出さない対策を実施すること。今年の台風による大雨に対応できる対策を講じること。

②地域ごとの水害対策を具体化し実行すること

<熊本市>

薄葉橋周辺の築堤、浚渫・掘削の完了。本荘地区より2mも低い城東地区の堤防完成。明午橋の上流藤崎宮側の堤防整備、大江側の拡幅工事の完成。明午橋架け替えを急ぐこと。竜神橋下流渡鹿の堤防が切れている部分、竜神橋上流渡鹿の堤防なしの区間、渡鹿堰上流・保田窪導水路下流の堤防なし区間、対岸の黒髪地区の堤防未整備区間対策、小碩橋下流の堤防整備を急ぐこと。

龍田陣内については、龍田校区第7町内自治会から熊本県議会議長に対して、「被災土地を遊水地等に活用して、対象地域は買収し代替え地を用意すること」との陳情書が出されている。用地買収、洪水に備えての河川掘削、護岸、築堤、災害情報伝達等、被災住民の要求を重視し、計画を早急に策定し住民合意で具体化すること。龍田1丁

目については、三協橋下流・右岸の堤防工事を急ぐこと。吉原橋の架け替えを急ぐこと。土砂の堆積が著しく、浚渫・掘削を急ぐこと。

<菊陽町、大津町>

河川整備計画を策定すること。浚渫・掘削、川幅の拡幅、親水性の護岸整備、遊水地、水田の湛水機能の確保(地下水涵養にも寄与)などを具体化すること。

<黒川流域、阿蘇地域>

遊水地の拡充、浚渫・掘削、川幅の拡幅などを進めること。

スギ・ヒノキの人工林の間伐、針広混交林化、草原の保全による、流木、土砂の流出を防ぐ対策を講じること。治山対策を抜本的に強化すること

③白川改修を河川激甚災害緊急特別事業に早急に指定し、改修工事を急ぐこと

今回の洪水被害は、「河川激特」の適用に該当するものであり、早急に「河川激特事業」に指定し、集中的に対策を講じること。

2、立野ダムについて

①立野ダムありきで、流域住民・県民には、「知らせず」「参加させず」

9月11日に開かれた「立野ダム建設事業の関係団体からなる検討の場」(第3回)がもたれ、「立野ダムが最も有効」との現段階での整理が示されました。そして「学識経験を有するもの」「関係住民」「関係地方公共団体」から意見聴取を行うことも示されました。しかし日程については、「昭和24年●月●日～平成24年●月●日」とあるだけでした。

ところが国交省九州地方整備局ホームページにはいきなり、「関係住民の意見を聞く会」を、9月22日(熊本市)、23日(大津)、24日(南阿蘇)で開くこと。意見を述べたい人は20までに提出すること。25日に、「有識者の意見を聞く会」ということが掲載されています。

A4350ページを超える専門用語と数字を交えた報告書案、説明文書を、短期間で、多くの流域住民、県民が読み解き、意見を発表することは極めて困難であり、貴職も当然わかるはずです。

白川の氾濫によって被災した住民はもとより、県民は、主権者、納税者として、国がすすめようとする巨大公共事業(立野ダムの残事業費約500億円。ダム建設は、当初額を上回る場合が多い。川辺川ダムは、当初350億円が3300億円に。立野ダムは、当初405億円が891億円)が、必要であるか、ないかを判断する権利があります。そのためには説明を受け、論議する機会が、時間的にも場所的にも保障さるべきです。

ちなみに、川辺川ダム問題では、9回の住民討論集会(53時間、ほぼ同程度の時間の事前協議も)、森林保水力検証、利水事前協議(76回、311時間)、球磨川・明日の川づくり報告会(53回、球磨川流域のほか熊本市、山鹿市でも開催)など、住民参

加による検証がなされています。

今回の「意見を聞く会」は、被災した流域住民、県民無視の計画であり、抜き打ち・だまし討ちともいえるやり方であり、立野ダムありきでことをすすめるためのアリバイづくりであると断じざるを得ません。

中止が確定している川辺川ダムの経験から、流域住民、県民に、「時間と場所を与えない」との企図からの今回の段取りであるならば、なおさら許されないことです。

②国交省は、説明責任を果たし、住民参加による検証を保障すること

国交省は、流域住民、県民に対する説明責任を果たすこと。そのための中・小規模の説明会を各地で開催すること。

パブリックコメントでも、立野ダムについては、異論・反対が多く出ており、県民参加型の公正な討論集会を開き、治水対策のあり方、コスト、安全性、環境、地域経済との関連などにわたって、より良いあり方を探求し、流域住民・県民参加で、ダム以外治水、立野ダムを含む治水を検証すること。

立野ダムの安全性については、立野ダム建設予定地周辺には、柱状節理が見られ、崩落しやすいこと。布田川・日奈久断層帯の一部である北向山断層が通っていること。ダム上流の水位の上下動を要因としての間隙水圧(地下水位)の上下動による斜面崩壊による危険。阿蘇地方は、山の深層崩壊による土石流によって、大量の流木、巨大岩石、大量の泥が流下する。これらによって穴あきダムの放流口がつまり、満杯になり、穴あき(放流型)の機能喪失すること、そしてダム自身の危険性。ダム堆砂による長期にわたる白川の汚濁等についての検証が必要です。